

桜っ子の学力向上プラン

【長崎市第五次総合計画】基本方針G 私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします
 基本施策G1 長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます
 G1-1 「確かな学力」の向上を図ります

【学校教育目標】 夢や憧れの実現に向け 自ら努力する子どもを育てる

【めざす子ども像】 進んで学び 共に考える子ども

【研究主題】 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりと桜町小のユニバーサル化」 ～ 主体的に学ぶ桜っ子の姿の追究 ～

《 桜っ子の課題 (5・6年生学力調査の結果から) と目標数値 》

【国語科】 漢字を正しく書いたり使ったりする力、書く能力に課題が見られる。 △漢字の意味を理解し、文中で正しく書いたり、ことわざなどの意味を理解し正しく使ったりできていない。 △目的に応じて、話の内容が明確になるように話の構成を考えられていない。 △条件に合わせて、事実と感想を分けて書いたり、自分の考えを書いたりすることができない。	目標数値	【算数科】 データの活用、図形の領域で課題が見られる。 △目的に応じてデータを収集し、分類整理し、データの特徴を読み取る力は十分ではない。 △複数の資料を読み、特徴を言葉と数を用いて記述、説明する力が十分ではない。 △図形の性質や特徴の理解が十分でない。 △式に表したり式に表されている関係を説明したり考察したりする力が十分ではない。	目標数値
	正答率70%		正答率60%
	正答率60%		正答率60%
	正答率60%		正答率70%

基礎基本の徹底

- 漢字の書き取り力向上
 - ・スキルの使い方、練習方法の統一
 - 桜町小ユニバーサル化

思考力・表現力等の育成

- 授業改善
 - ・指導事項、身に付けたい資質能力の整理
 - ・「書くこと」の領域の分析（指導要領P32）

学習意欲の向上

- 自ら学ぶ態度の育成
 - ・学習方法の定着
 - ・振り返りの書き方と生かし方

教師の指導力向上

- 校内研究の充実
 - ・「明日のために」、あじさいスタンダード、授業アイデア集などの活用
 - ・ICT教育の充実と効果的な活用の検討

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
桜っ子の課題(国語科・算数科) (教科書)	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名、漢字の習得が不十分である。 ・促音、拗音、長音など、読めるが書けない。読めない児童も少数ではあるがいる。 ・設問の内容を正しく読み取る力が十分でない。 ・話を聞くことが十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞の理解が不十分であり、まとまりのある文を書くことが苦手な子がいる。 ・自分の思いや考えを書くことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字、言葉の習得ができていない。 ・文章の読み取りができていない。 ・条件作文などの作文を書くことが苦手である。 ・文章を書く習慣が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力が低く、文章の意味を理解できていない。 ・書くことに対する苦手意識がある。 ・叙述の中から理由を見つけたり、文や語に注目して要約したりすることが苦手である。 ・主語、述語を明確にして書いたり話したりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中心が明確になるように話の構成を考えることが苦手な子が多い。 ・言葉のつながりを捉え、適切に漢字を書くことができない。 ・話の要点を捉えながら聞くことができない子が多い。 ・目的を明確にして読み取ったり、条件に合わせて自分の考えを書いたりすることが苦手な子が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の意図を明確にして、条件に沿って書くことができない。 ・言葉のつながりを捉え、適切に漢字を書くことができない。 ・自分の経験や知識をもとに自分の考えを書くことが苦手である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の理解が不十分である。 ・学習の流れがスムーズに捉えられていない。 ・量の理解が身に付いていない。 ・計算ミスが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の題意を理解して、式を立て解答を導くことができない。 ・長さ、水のかさ等、量の理解が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力が弱い ・文章問題の題意を理解して、式を立て解答を導くことができない。 ・文章をよく読まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算力が低い。 ・文章問題の場面把握ができていない。 ・思考力が低く、活用問題などになると、既習事項を生かすことができない。 ・単位換算が苦手である。 ・量感をつかめていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概数や割合などの知識を生活の中で考えたり生かしたりすることが苦手。 ・式に表したり、式に表されたりしている関係を考察する力が十分ではない。 ・目的に応じてデータを収集し、分類整理し、データの特徴を読み取る力が十分ではない。 ・問題にじっくり考えたり見直したり、分析することが苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形や割合を生活の中で考えたり生かしたりできない。 ・式の意味や式の中の数値の意味をとらえることができない。 ・目的に応じてデータを収集し、分類整理し、データの特徴を読み取れない。 ・何を問われているのか理解できていない。
	家庭学習の習慣付けを行う。	家庭学習の習慣付けを行う。	家庭学習の定着と共に、自主的な学習に取り組む習慣付けを行う。	家庭学習の定着と共に、自主的な学習に取り組む習慣付けを行う。	自身の課題に応じて計画を立てて自主学習に取り組むことができるようにする。	自身の課題に応じて計画を立てて自主学習に取り組むことができるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・視写に取り組み、正しく文字を書けるようにする。 ・設問に合った答え方を身に付けるために、練習プリントに定期的に取り組み、解説を行う。類似のプリントを用いて練習させることにより、正しく読み取る力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字に繰り返し取り組みさせる（毎時間漢字小テストを行う）。 ・分かったことや気付いたことを文にまとめる。 ・語彙を増やすため、「ことばのたからばこ」から言葉を指定して短作文を書く。 ・友達のを聞き、ハンドサインを使って反応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、言葉の習得を図る。 ・音読、読書の推進をする。 ・自分の考えを表現（話す、書く）する機会を確保する。 ・主語・述語を明確にして、あいまいな表現ではなく、具体的に表現させる。 ・順序や接続を表す言葉を用いて表現する。 ・キーワードや条件、根拠を明確に示して、表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での漢字学習のやり方を工夫させる。 ・国語辞典などを用いての意味調べを自主学習などで繰り返し行わせる。 ・授業の中で自分の考えを書く機会を確保する。 ・授業の中で、なぜそう考えたのか叙述から理由を明確にさせる。 ・重要な語や文に印をつけさせ、要約への手がかりとする。 ・相手に正しく伝わるように日常会話を指導する。 ・漢字練習の取り組み方を4～6年生でそろえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1Hを意識して話す指導を行う。 ・漢字練習の取り組み方を4～6年生でそろえる。 ・相手意識をもって理由や事例を選んだり、選んだものが分かりやすいかをグループ検討したりする協働的な学びの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1Hを意識して話す指導を行う。 ・漢字練習の取り組み方を4～6年生でそろえる。 ・相手意識をもって理由や経験を書く活動を取り入れて、推敲する場面では、グループで読み直しをするなど協働的な学びの場をつくる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では、キーワードに着目させ、正しく立式することができるように、定期的に文章問題のプリントに取り組ませる。 ・時間を決め、丁寧に計算問題に取り組ませる。 ・具体物や半具体物を用いて、理解を促す。 ・見直しを徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間計算50問テストに取り組み計算力を付ける。 ・自分の考えを絵や図で表すことができるように、ノート指導を徹底する。 ・文章問題を読むときに、分かっていることや聞かれていることに線を引かせ、問題の意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章量の目安や、具体的な書き方のモデルを示す。 ・文章問題から、わかっていることを見つけさせる。 ・文章問題を線分図に表す。 ・文章問題から立式させる。 ・基本的な計算力（加減乗除）の向上を図る。 ・まとめと振り返りを自力で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では、分かっていることと聞かれていることに印や色分けなどをして、解決への見直しをもたせる。 ・キュービナや読み上げ算数を取り入れて基礎の定着を図る。 ・必要に応じて、身近なものに置き換えたり、具体物操作を行ったりして量感を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計的な問題解決活動を教科横断的に経験させる。 ・数直線や線分図等で考えを表す指導を充実させる。 ・自分の考えを見直したり、よりよい方法を考えたりすることを主体的に行えるように、協働的な学びの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立式の際は、根拠を言葉や文で説明させる。 ・チャレンジタイムで計算と読解・記述に取り組ませる。 ・授業で、問題に対する自分の考えを文章で説明する機会を増やす。 	

☆学校☆

- 学習環境の整備 ○学習規律の定着 ○学力調査の実施・分析・改善策
- あじさいスタンダードなどを活用した授業改善 ○効果的なICTの活用の検討

☆家庭☆

- 基本的な生活習慣づくり（早寝、早起き、朝ご飯）
- 家庭学習（宿題・自主学習）の定着

☆地域☆

- 幼保小連携、小中連携、その他関係機関との連携 ○地域行事への参加 ○地域人材の活用
- 学力向上サポーターの活用 ○放課後子ども教室